

A-2-57 救急外来におけるNPPVに関する指導を実践して

医療法人かりゆし会ハートライフ病院 看護部

石川 由希

【はじめに】当院では平成13年より急性期に対するNPPV導入を行ってきたが、操作やマスクフィッティングの手技が思うように定着しなかった。そこで何が問題なのかを確認し、救急外来におけるNPPVの活用と、手技の定着を図るため改善策を検討した。

【方法】NPPVに関するアンケートを施行。

構成内容を工夫した勉強会を実施。

救急外来独自の操作マニュアルを作成・活用。

再度、アンケートとテストを施行し、勉強会前後の比較。

【結果と考察】勉強会前のアンケートでは8割ができないと答え、テストでは約半数の人が「わからない」という結果となった。アンケート・テスト結果から、従来の学習方法を検討する必要が出てきた。学習方法としては救急外来独自の操作マニュアルを作成、それを用いて実際にNPPVに触れて設定を行う実践を取り入れた参加方式にした。また、全員が機械操作ができるよう少人数制で数回行った。

勉強会後のテスト結果では正解率が65%から91%へ上昇した。アンケートでの意識調査結果では勉強会前では、NPPVの理解、設定、マスクフィッティングができますか?の質問に対して、「できない、あまりできない」との答えが8割であった

が、勉強会後では「できる、ややできる」と答えた人がほとんどだった。NPPV使用に対しての不安の内容にも変化がみられ、勉強会前に比較して知識、技術に対する不安は減少し、D rに対する不安がわずかながら増加。また新たに経験不足に対する不安が出てきた。スタッフへ勉強会に出席してNPPVに対する意識が変わったか?との質問に「NPPVが少しは理解できるようになった」「NPPVに触れるようになった」など勉強会をしたことでスタッフの意識に変化がみられた。また「積極的に使用して行きたい」「勉強会を持ってほしい」等の意見もあり、敬遠されがちだったNPPVに対して関心が高まってきたものと考える。

今回の勉強会のみでは、NPPV装着患者に対する看護の手技、知識は十分ではない。しかし、NPPVに対する苦手意識を減らし、興味を持つ良いきっかけになったのではないかと考える。

【まとめ】症例の少ない救急外来において、NPPVの装着手技、知識を習得するには、NPPVの設定操作・マスクフィッティングを実践する参加方式が有効であった。また、操作マニュアルを作成したことで、各自が学習したことの振り返りに役立っている。

【結語】今後は定期的かつ段階的にレベルアップするための勉強会を継続していく必要がある。